

免田栄さんと共に歩いたデモ

今年の10月10日（世界死刑廃止デー）

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

日本では、「凶悪」な犯罪事件が報道されるたび、犯人を「死刑」にしないとおさまらないかのような「空気」が満ちているようです。でも、なぜ、「死刑」でなければならないのでしょうか。

世界では多くの国・地域が死刑を廃止しており、日本のように「凶悪犯罪」も少ない国で、なぜ、死刑のような残酷な刑罰が残っているのか、不思議に思われています。

死刑を廃止した国と地域

現在、死刑を廃止した国と、10年以上死刑の執行を停止している事実上の死刑廃止国を合わせれば140カ国にのぼります（アムネスティ・インターナショナルの調査）。

EUの参加条件には死刑廃止が課せられており、「先進国クラブ」と呼ばれるOECD加盟国の中で死刑を存置しているのは日本と米国だけですが、その米国でも18の州が死刑を廃止しています。

問題の多い日本の執行

しかし、日本政府は、死刑廃止への努力を促す国際人権機関からの度重なる勧告にも耳を傾けようとせず、死刑の執行を続けています。

執行された人の中には、冤罪が疑われている人、再審を準備していた人、心身を病んでいた人、自ら上訴を取り下げてしまった人たちがいます。そしてなにより、国家がいかなる理由にせよ、人の命を奪うことは人道に反します。

私たちはこのような日本の死刑制度に疑問を持ち、一日も早い死刑の廃止と死刑執行の即時停止を求めています。

免田栄さんの歩み

世界死刑廃止連盟（WCADP・本部パリ）は10月10日を世界死刑廃止デーと定め、世界中でキャンペーンを行うよう呼びかけています。日本でも全国各地でこの日の前後に様々なイベントが繰り広げられます。

東京では、10月12日に四谷区民ホールで集会が持たれ、無実の罪で34年間も死刑と向き合う獄中生活を送り、再審無罪判決を得て生還した免田栄さんへのインタビューや、死刑囚による文芸・絵画作品の紹介や講評などが行われたあと、新宿駅周辺でのデモ行進が行われました。今年米寿（八八歳）の免田さんが元気に解散地点まで歩かれる姿には、胸が熱くなりました。

ビラを受け取られた皆さんにも、ぜひ、この機会に、死刑について考えていただければ幸いです。